

令和3年第10回熊野町議会全員協議会

会議録

1. 招集年月日 令和3年10月29日

2. 招集の場所 第1委員会室

3. 開会年月日 令和3年10月29日

~~~~~  
4. 出席議員（15名）

|           |           |
|-----------|-----------|
| 1番 水原耕一   | 2番 福垣内邦治  |
| 3番 光本一也   | 4番 中島数宜   |
| 5番 尺田耕平   | 6番 竹爪憲吾   |
| 7番 諏訪本光   | 8番 沖田ゆかり  |
| 9番 片川学    | 10番 時光良造  |
| 11番 民法正則  | 12番 荒瀧穂積  |
| 13番 山吹富邦  | 14番 山野千佳子 |
| 16番 大瀬戸宏樹 |           |

~~~~~  
5. 欠席議員（1名）

15番 中原裕侑

~~~~~  
6. 説明のため出席した者の職氏名

なし

~~~~~  
7. 本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長

西村隆雄

~~~~~  
8. 案件

【議会】

(1) 各常任委員会の活動状況について（報告）

(2) 議会運営委員会の活動状況について（報告）

(3) 議会広報特別委員会の活動状況について (報告)

(4) タブレットについて (協議)

(5) その他 (協議)

~~~~~○~~~~~

9. 議事の内容

(開会 9 時 3 0 分)

○議会事務局長 (西村) それでは、定刻になりましたので、お願いしたいと思います。

本日の会議ですけども、中原議員さんは御欠席ということで、片川議員さんはちょっと遅れるというふうに御連絡をいただいております。

それでは、お願いいたします。

~~~~~○~~~~~

○議長 (大瀬戸) おはようございます。

議員の皆様方、本日はお忙しい中、全員協議会にお集まりいただきましてありがとうございます。本日は、各委員長さんからの報告の後、現在検討を進めておりますタブレットにつきまして、協議をしようと思っております。皆様から様々な御意見をいただきながら本日の全員協議会を円滑に進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、ただいまから全員協議会を開会します。

本日は報告案件 3 件、協議案件 1 件について御協議いただくこととしております。

それでは、早速協議に移ります。

報告案件 1、各常任委員会の活動状況について、各常任委員会の委員長から説明を受けたいと思います。

それでは、竹爪総務厚生委員長、お願いします。

~~~~~○~~~~~

○総務厚生委員長 (竹爪) 総務厚生委員会は、9 月 2 7 日月曜日にさせていただきました。全員出席のもとですけど、前回決定した 3 つの重点調査項目について、今後どのように調査を進めていくかを協議させていただきました。そして、次は 1 0 月 2 5 日月曜日に、同じく 6 名の出席委員のもとにおいて委員会を開催させていただきました。内容につきましては、新型コロナウイルスワクチン接種状況についてのことと協議させていただきました。

以上でございます。

〇議長（大瀬戸） ありがとうございます。

次は文教委員長ですが、片川委員長が到着次第お願いしたいと思います。

そして、次に尺田産業建設委員長、お願いします。

〇産業建設委員長（尺田） 9月29日に産業建設委員会を開催いたしました。内容としては、今年度の重点調査項目について協議をいたしました。次回は11月5日を予定しております。

以上でございます。

〇議長（大瀬戸） 各常任委員会委員長からの報告が終わりました。

この報告について質疑があればお願いいたします。質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

〇議長（大瀬戸） それでは、ないようですので、各常任委員会の活動状況についてはこの程度として、次の報告に移りたいと思います。

報告案件2、議会運営委員会の活動状況について、議会運営委員会委員長から説明を受けたいと思います。

それでは、時光議会運営委員長、お願いします。

〇議会運営委員長（時光） 議会運営委員会といたしましては、8月11日に、令和3年第4回熊野町議会臨時会の運営について協議いたしました。続いて、8月20日、協議事項としては意見書の採択についてということで、協議させていただきました。続いて、9月9日、9月議会の会期の決定等、決算特別委員会の設置及び進行方法についてなどを協議いたしました。

以上でございます。

〇議長（大瀬戸） この報告につきまして質疑があればお願いいたします。

（「なし」の声あり）

〇議長（大瀬戸） ないようですので、議会運営委員会の活動状況についてはこの程度と

して、次の報告に移りたいと思います。

報告案件3、議会広報特別委員会の活動状況について、議会広報特別委員会委員長から説明を受けたいと思います。

それでは、沖田議会広報特別委員長、お願いします。

~~~~~〇~~~~~

○議会広報特別委員長（沖田） 議会広報特別委員会といたしまして、令和3年8月11日、くまの議会だより第120号の紙面構成について、大幅刷新を行うために皆さんからたくさんの意見をいただきました。以下、120号の作成について、9月22日、10月6日、10月13日、10月20日に開催をしております。

皆様、月末配付資料の中にくまの議会だよりが入っていると思いますので、見ていただければ分かるんですけども、今回から大幅刷新ということで、表紙につきまして、表紙と裏表紙を連動企画としております。今までは、町内の子供たちや町内の活動する町民やグループをテーマとするということでスポーツ少年団を取り上げておりましたけれども、今号から町内で活躍する団体ということで、あまり町広報などで取り上げられていないグループを中心に取材をさせていただいております。

今回は民生委員となっております、それから表紙の、今までとちょっと変わっていると思うんですけども、表紙は全面写真ということにいたしまして、今回は横になっておりますが、これは1人でも多くの民生委員さんが表紙に顔が出るようにということで横にしておりますが、毎号横になるということではありません。その都度縦になったり横になったりですが、写真を全面に使うということにしております。そして、その表紙に掲載されている団体の記事が、裏表紙のほうへ記事が載るようになっております。

続きまして、中身に入るんですが、決算のページ、また定例会のページが町民の方に読みやすいようにということで、写真を多く使い、なるべく文字を少なくという載せ方をしております。また、熊野町議会臨時会意見書の採決結果など横書きにずっととなっておりますので、読みやすくなっていると思います。

また、この臨時議会のページは、議案の中身が分かりやすいように、これ熊野西防災交流センターですが、このたびは、15ページの総務厚生委員会のページに関連記事があるというようなことで、町民の皆様に分かりやすいように誘導したページとなっております。

一般質問のページにつきましてですが、このズバリ町政を問うという文字なんですけ

れども、町内の中学生に書いていただいております。熊野中学校と東中学校の書道部の生徒に、毎号代わりばんこというか、交代に書いていただいたものを載せようと思っ  
ているんですが、120号は熊野中学校の2年生の井原さんという方が書いてくださいま  
した。また、目次に関しても横書きにしております。

一般質問のページですが、議員が2つ質問した場合には1ページ使っております、  
どの議員さんが質問したかということはこの1ページでまとまって見られるようになっ  
ております。また、質問項目が1項目だった場合は半ページということになっておりま  
すので、13ページの福垣内議員と荒瀧議員のところを見ていただいたら分かるんです  
が、1項目の質問の議員さんの場合には半ページずつ掲載ということで、今までどおり  
させていただきます。

委員会のページは今までとは変わっておりません。今後も委員会の皆さんとともに  
町民の皆様に分かりやすい議会だよりの編集に努めていきたいと思っております。

また、あわせて今日お配りしておりますくまの議会だよりの編集方針を一読して  
いただければいいと思うんですけれども、9月議会でも言ったんですが、写真については、  
今まで撮っている写真でいいと言われる方はそのまま掲載させていただくんですけれ  
ども、新しく写真をその都度撮るということに現在しております。御希望の方は議会が  
終わった後に事務局のほうに撮っていただいております。

以上でございます。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 以上の報告について、何か質疑があればお願いいたします。質疑はあ
りませんか。

尺田議員。

~~~~~○~~~~~

○5番（尺田） ちょっと内容は違うんだけど、どうだろう、今回、広報委員会が始まる  
前に、産業建設委員会じゃあ記事を書きせんというて事前に伝えておったんですよ。そ  
れを無視して、載せるという方向で一回協議した後に、載せんいうてわしが言って、結  
局載らんかったんじゃけど、産業建設委員会の委員長が載せんいうて最初から言いよ  
るのに協議をするというのはどういうことなんじゃろうか思うて。どれだけの権限が広報  
委員会に与えられとるんかのう思うて、ちょっとそこを聞きたいんですけど。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 沖田議員。

○8番（沖田） 別にそのことについて協議というものは別に持ってないんですけどね。

○議長（大瀬戸） 尺田議員。

○5番（尺田） 載せる方向になりましたいうてわしは聞いとるんだけど。

○議長（大瀬戸） その辺はどうなるのか、ちょっと私は状況は分かりませんが。

○8番（沖田） いや議長、出ちよったじゃないですか。

○議長（大瀬戸） いやいや、前もって載せないという話があったんですか。

○5番（尺田） 伝えとったんですよ。

○議長（大瀬戸） 別に協議というような形ではなかったような気がしますけど。

○8番（沖田） そうですね。

○5番（尺田） 載せる方向になったけえ、記事を作らにゃいけんいうて後から聞いて、いや、載せん言いよるんじゃけ、載せんいう話をわしがして。

○議長（大瀬戸） 今度から事前にね、事前にちょっとお話をしてもらって。

○5番（尺田） ある程度の筋を通してもらわんと。

○議長（大瀬戸） その辺のところは直接話をしてもらってということで、委員会のほうでは報告ぐらいにしていったらどうですか。

○ 8 番（沖田）　そうですね。

○ 議長（大瀬戸）　荒瀧議員。

○ 1 2 番（荒瀧）　もし載せとらんかって、何であんたは載せんのかなということでしょう、出たときに、聞かにゃいけんわいの。

○ 5 番（尺田）　事前に広報には載せませんと言いよる。

○ 1 2 番（荒瀧）　活動せにゃあからんのじゃけ、常任委員会。

○ 議長（大瀬戸）　ちょっと待ってくださいね。これ文書に残りますから、ちゃんと指名してから答えてくださいね。荒瀧議員。

○ 1 2 番（荒瀧）　今の様子からしますと、産業委員長の権限があって、わしは載せん言うたら通るんだという論理のようですが。

○ 議長（大瀬戸）　ちょっとマイクを口元に。

○ 1 2 番（荒瀧）　常任委員会の、やっぱり活動する以上、それを載せんいうのは、皆さんの了解を取ってもらわにゃ。みんな議員の中で。私はそう思うよ。

○ 議長（大瀬戸）　尺田議員。

○ 5 番（尺田）　今回は載せる必要がないと思ったから載せませんいう話で、そこは委員長次第なんじゃないんですか。わしはそう思うんですよ。まあ、ええですけど。

○ 議長（大瀬戸）　先ほども言いましたように、事前に広報委員長と相談をして、今度設けてください、そういうことがもしあれば。それで、そこでまた協議したらどうかと思いますけど。沖田議員。

そしてスクールサポートスタッフの取組について、この4点について視察を行いたいと思ひ、協議をさせていただきました。

以上でございます。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ただいま文教委員会からの説明がありました。

これにつきましての質疑や疑問点とかございましたら、お願いします。

（「なし」の声あり）

○議長（大瀬戸） ないようですので、文教委員会の活動状況についてはこの程度として、次の協議に移りたいと思ひます。

それでは、各委員会からの報告は以上としまして、これより協議案件、タブレットについて協議をします。

前回の全協では、タブレットについてどのようなものか、どのように使うのかなどを全議員で共有することとして、システム事業者から話を聞いて意見交換をいたしました。今回は、タブレットの利用について、その方向性を皆さんで協議しようと思ひますが、この協議に入る前に、前回の意見交換時の意見として、タブレット利用のメリットやデメリットなどについて共有し、その後、協議に移りたいと思ひます。

まず、事務局に資料を用意させましたので、その説明を受けようと思ひます。西村事務局長。

~~~~~○~~~~~

○議会事務局長（西村） 失礼します。それでは、座って説明をさせていただきます。

まず、タブレットの検討につきましては、これまで、議長さん、副議長さん、そして議会運営委員会の委員長さん、副委員長さんによるタブレットの検討会議で御検討をいただいております。その検討会議で、タブレットがどのようなものか、議員皆さんで共有する必要があるだろうということで、前回、短い時間でしたけども、ペーパーレス会議システムについて事業者からの説明を聞いていただき、実際にタブレットを御利用いただきました。また、その検討会議におきましては、執行部と意見交換もされたところでございまして、その協議の中で、執行部のほうから、議会でタブレットの導入を進められるのであれば、執行部も歩調を合わせての導入を考えられる。それは第6次総合計画の基本施策に掲げるスマート自治体への体制整備において、ペーパーレス化の推進を掲げられていることからもとのこととさせていただきます。

そのようなこともございまして、本日は、タブレットの利用に関しまして全般的に御説明をさせていただいて、また、資料につきましては執行部で準備いただいた部分もございまして、あらかじめ御承知いただけたらと思います。

それでは、ホッチキス止めをしております資料をお願いしたいと思います。

まず、1枚目ですけれども、1では、まずタブレットの利用目的及び期待される効果を挙げてみました。

ペーパーレスによる環境負荷の軽減ですけれども、紙での資料が減ることですので、ごみの減量となって、CO₂の排出抑制になるということになるかと思っています。

続く、効果的・効率的な議会運営、議会活動ですけれども、後のメリット・デメリットにも関係してきますが、紙媒体でなくデータとなりますことから、資料等の印刷・製本・配布といった事務コストが下がります。で、効率化されるという点や、データですので、大量の資料の中から任意の資料を容易に検索できるなど、会議の上でも効率化が図られるということになります。

これ導入された市町のほうで伺ったんですけれども、行政視察へこれを持って行かれて、これで写真を撮られたり、メモをされたりということや、住民から説明を求められたりした際に、撮影された写真、あるいは公表されている資料を見せたりしながら説明をされるなど、いろいろな場面で議員さんの活動においても効果があるというふうに伺いました。

次の議会内の情報伝達・管理の向上は、議案や資料などのほか、議員皆さんにお伝えしなければならない情報が一斉送信で同時に伝達できますので、迅速に対応できるという点があります。また、これでお伝えした内容は残すこともできますし、情報も蓄積保存できますので、後々においても情報の管理にも役立つのではなかろうかと思っています。特に、災害発生時におきまして、既に取決めいただいております要領によりまして、議員皆さんの安否確認から情報伝達などにも利用できそうですし、議会内の情報管理は向上するものと思われま。

続いて、2、タブレット利用のメリット・デメリットですけれども、まずメリットといたしまして、過去の資料等の閲覧が容易ということで、議会で使用する議案や資料等のデータを保存・蓄積していきますので、例えば、昨年度の決算書を確認するなどの場合において、御自宅に保管してある冊子を開かなくても、このタブレット端末で確認したり、あるいは以前の全協で説明を受けた事業内容を確認したりなど、過去の資料等につ

いても容易に閲覧ができるようになります。また、このシステムから閲覧できる資料につきましてはこれを見ればよくなりますので、いろいろな資料を持ち運ばなくてもよくなりますし、インターネット通信ができるのであれば、いつでも議案等の確認、調べ物検索が可能となります。

続いて、紙の資料でなくなりますので、会議後においても、あの資料をどこに収めたろうかというような心配が不要となります。また、先ほども申しましたが、私ども事務者におきましては、議案やその他の資料等の印刷、製本、お配りする行為が不要となりますので、事務量は軽減されることとなります。そして、リモート会議にも対応可能ということになるかと思えます。

続いて、デメリットですけれども、まずは機器及びシステムの費用負担が発生します。この点については後ほど御覧いただきたいと思えます。それで、この費用負担の部分を除きまして、やはり使ってみないと分かりませんので、これより先の部分は、既に導入されている町に伺ってみました。実は、あまりデメリットを感じてないのだが、強いて言うのならということで御回答をいただいたものでございます。

まず、2つの資料を同時に見ようとする際は不便ということがございました。タブレットでも2つの資料を同時に見ることはできるようですが、やっぱりこれまでとは違って不便に感じられるということのようです。また、タブレット端末、これは端末の大きさなどの影響もあるのかもしれませんが、字が小さく感じられるという御意見もあるようでした。

そして、これはデメリットと言えるものではないかもしれませんが、やはり慣れるまでは操作が難しいとか、手間であるというようなことから、使い始めた当初は扱いにくく感じられる方はおられたようです。

また、そのようなこともございまして、この町で伺ったところでございますけれども、タブレット端末を調達されて、1年以上の期間は試験的な運用をされて、そしてその後本格的な運用に移行されたというふうに伺いました。実際、本会議においてすぐに本格的に運用するということは、議会側だけでなく、執行部側でも難しいと思えます。そういったことから、常任委員会など少人数の会議などから徐々に使い慣れることをされたというふうに伺いました。

続いて、3、県内の導入自治体でございますけれども、現時点で把握しているところといたしまして、広島県のほか、御覧の10市2町が議会でのタブレット導入をされてい

るようでございます。

続きまして、2枚目の資料をお願いいたします。この資料は、先ほど申しました執行部で準備いただいた資料といたしまして、議会でタブレット利用検討をするに当たり、執行部でも歩調を合わせ、ペーパーレス化を検討するため作成いただいた資料になります。

1の概要ですけれども、議会のペーパーレスシステムの導入と併せ、庁内のネットワーク及び端末を拡充することでペーパーレス化を進め、業務効率とコスト削減を目指すものとされております。

2の構成ですが、図の左側は主に議会サイドの使用となりますが、委員会や本会議での使用、あるいはWEBミーティング、インターネットの活用による議員さんの調査研究。

図の真ん中には、タブレットで利用されるものとして、前回御覧いただいたペーパーレス会議システムのイメージ。

図の右側のほうが執行部での使用でございます。執行部では、議会での使用のみならず、庁内会議、あるいは打合せ等でも使用され、ペーパーレスの推進により、コスト削減、情報の共有性・検索性を強化することを検討されておられます。

中段のところ、番号表示により箇条書とされておりますが、①といたしまして、議会側、議員さんはタブレットによりインターネット直通環境で利用、ということですが、これは、本会議等で議案、あるいは各種資料を御覧いただくペーパーレス会議システムはインターネットを利用してということになっておりますので、このような表現となっております。これに加えまして、②のタブレット端末に通信機能を付与することにより、御自宅でもインターネットに接続でき、議案や各種資料を御覧いただくことや各種の調査研究も可能となります。

これに対しまして、③の執行部側ですけれども、キーボードのついたタブレット端末を導入することにより、通常業務にも利用されることを視野に入れられております。これは、議会のためだけに使用するそういったタブレット端末を導入するというような形の投資は避けようというものでございますが、ただ、通常業務で使用するのであれば、今と同様のセキュリティを確保する必要があるということから、行政専用の閉ざされたネットワークでありますL G W A Nでの利用とする必要がありますので、④、⑤のところでございますように、議会側と執行部側の接続の仕方、システムへ接続するその道筋が

異なりますので、それぞれの環境を整える必要が生じてくるということになります。

続いて、このページの一番下のところ、(2) アクセスポイントです。役場4階の平面図でございますが、議員さんのタブレットでインターネットへの無線接続、そして執行部でのL G W A Nへの無線接続が可能となるように、このようにアクセスポイントを設けたらどうかというような図となっております。

右のページに移りまして、(3) のネットワーク接続イメージですが、議員さん用のタブレット、そして職員用のタブレットは、それぞれ無線アクセスポイントから、機械的な通信の道筋の制御を受けながら、職員はL G W A N、議員さんはインターネットへと、それぞれ接続するイメージというふうになっております。

そして、最後になりますけども、タブレット導入に係る費用が示されております。この費用につきまして、先にお断りをさせていただきたいと思うんですが、タブレット端末の種類、機種、大きさはどうするのかとか、どの会議システムを使うのか。また、使い方のルールはどうするのかなど、まだいろいろ決めていかなければならないことがございますけども、まだそこに至っておりませんので、現時点におきましては、機器、それから通信については想定される中で上のほう、上位の状態、また、会議システムについては、先日皆さんに御覧いただいたものを使うとしたらというような状態でここへ記載させていただいております。

表の上から議員さんのタブレット端末ですけども、議員さん16人と予備機2台を想定した18台を購入する価格といたしまして、左側、イニシャルコスト、いわゆる初期費用といたしまして320万円。その右、ランニングですけども、タブレットの通信費や保守に係る費用の5年分といたしまして800万円、1年間では160万円というようなことになろうと思います。

次の行は、先日御覧いただいたペーパーレス会議システムでの費用を入れております。イニシャル9万円、これは当初の設定費用でございます。右側ランニングは、システムの基本料金や50台当たりのライセンス、それからデータ保存容量の10ギガを確保するための費用として、5年分で500万円という計上になっております。

続いて、執行部の端末です。これは先ほど申しましたタブレットに加えてキーボードをつけて、そして保証などの費用が加算されたもので、当初購入費用といたしまして710万円とされております。

次の行はネットワークの費用ということですけども、現時点におきまして、議場や、

ここ委員会室にはネットワークの配線が施されておられません。したがって、まずネットワークの配線を施して、その上で庁舎内の必要箇所にタブレット用の無線アクセスポイントを設置すると。そういった費用といたしまして850万円が必要というふうになっております。

以上のような費用の合計といたしまして、左側のイニシャルコストは1,889万円。ランニングコスト、これ5年分ですけれども1,300万円。その合計といたしまして、5年分で3,189万円というふうになっております。

ここで、実は急な話として伺ったものでございますけれども、本年度、コロナの交付金が、新たに1,600万円交付されるということがあるようでございます。このことにつきましても、また改めて説明もあろうかと思いますが、12月の定例会に補正予算計上を要するという事柄のようで、実はこのタブレット及びそうした環境の整備については、リモート利用の観点からも、コロナ関係のこの交付金の趣旨にマッチするというものとなるようです。先ほどもございましたように、総合計画の基本施策「スマート自治体への体制整備」でペーパーレス化の推進が掲げられておまして、執行部では今後、これに沿った対応を進められる必要がありますけれども、こういった部分、将来的に整備を要するものであることから、町単独で整備するのではなくて、これを機に、本年度中に導入が考えられる部分のイニシャルコスト1,800万円余りの費用にこの交付金の充当を考えたいというふうにおっしゃっておられました。

すみません、以上、ざっとではございますけど説明とさせていただきます。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ありがとうございます。

ちょっと長くなったんですけれども、全部ぱっと理解しにくいかと思いますが、今の説明でまだもっと聞きたいとか、あるいはちょっと分からなかったとかいうことがありましたら、質問なり、意見なりございませんか。

荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 私なりにいろいろなことを読んだり、調べたりしておりますけれども、結局、日立の中西という人の備忘録の中に、デジタルの一番進んでないのが電力会社と行政だって。はあ、死んじゃったけど。この人は今から日立も物を作る会社からソフトを運営していく会社になる、株価が3倍になりました、ここだけね。彼がやっぱり一

番ネックになっておるのは、行政がデジタル化に取り組まないということですよ、電力会社も。

熊野町の行政としてはどこまでデジタル化の準備をしているか。福垣内さんが質問されましたWi-Fiの件でも全く検討せんいうレベルで止めるわけですから、非常に意識が低いように思うんですけども、このあたりも併せて、要はどこまでの、いつまでのデータが検索できるか。過去100年、町政になってありますけども、これはもう目途を立てていかにゃいけんと思います。どの程度進んでますかね、行政のほうは。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 事務局長。

~~~~~○~~~~~

○議会事務局長（西村） すみません。今、このペーパーレス議会会議システムでは、10ギガバイトまで入れるよというのがあります。10ギガバイトごとに費用がかかりますよというのがあるんですけど、この10ギガバイトは、これは今から皆さんで御協議いただきたいと思うんですが、どのぐらいまでの年度を遡って入れるかと。例えば議案、あるいは全協の資料だとか、委員会の資料であるとか、そういったものをこの中に納めていくという格好になると思うんですね。それを蓄積して行って、ある程度10ギガという点がありますので、どこかしたら削除していく、新しいのをどんどん積み重ねていきますので、どこかしたら削除していくと、そんな仕組みづくりが必要になってくるのかなというふうに思うんですが、なので、例えば当初3年分であるとか、5年分であるとか、そういったところまで遡って入れとく。そういった、入れるにおいてもまた費用がかかるのかも分かりませんが、取りあえず蓄積させる年数をどれだけにするかというのは御協議いただければと思います。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） そのあたりも含めて、例えば災害に対して過去どのような対応をしてきたかとなれば、年度ごとじゃないわけですよ。通年的に10年分、災害の意識がどのように変わってきたかというのも検索しとうなりますから、3年前だけじゃなくて。いろいろそういう議論も踏まえながらデジタル化する必要があるかと思います。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ほかにございませんか。尺田議員。

~~~~~○~~~~~

○5番（尺田） さっきしゃべり過ぎて疲れとるんじゃないけど。

ここへ導入自治体数を書いとるんですけども、導入議会数というのは分らないのかね。この間のタブレットの説明の中で、自治体と議会、分かれた項目があったんですけど、自治体と議会、違っとして、自治体じゃあ導入しとるけど、議会のほうじゃあ導入してないとかいうのがあったんですけど、議会の数はどうなんでしょう。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 事務局長。

~~~~~○~~~~~

○議会事務局長（西村） 今、ここに挙げておりますのは議会のほうで導入されている自治体となっております。逆に、その中に議会と執行部側と両方ともで使っているのがございます。申しますと、この中で福山市、府中市、三次市、三原市、廿日市市、大崎上島町さんは議会と執行部が使っているのはちょっと分かっております。もしかしたらまたその後、執行部側でも導入されているケースもあるかも分かりませんが、今ちょっとつかんでいる状態ではそのような状態でございます。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 尺田議員。

~~~~~○~~~~~

○5番（尺田） どうだろう、タブレットになれてないからペーパーのほうが使いやすいんじゃないという人も結構多いと思うんですよね。急にタブレットに変わったりとかしたときに、追いつける人と追いつけない人の差というのはあると思うんですけど、どうなんだろう。その辺もちょっと協議を今後してもらいたいんですけど。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 事務局長。

~~~~~○~~~~~

○議会事務局長（西村） これもちょっと導入されている自治体のほうで何ったところですけども、先ほども若干触れましたけども、調達をされて、タブレットを手に持たれて、それから1年以上は練習期間といいますか、されたようです。特に、利用の人数が少ないというところで、常任委員会等から使い始められて、それから1年ちょっとたってで

すかね、本格導入をされたというふうに伺ってます。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） また付け加えますと、まちによっては、どうしても俺は駄目だと、苦手だという人は、紙でやっているというところもあるようです。その人だけ。何名かだけね。そういう全員がどうしてもというんじゃなくて、どうしても紙しかできないという人にとっては紙でやってもらっているという自治体もあると聞いてます。尺田議員。

~~~~~○~~~~~

○5番（尺田） 今後、協議する上で、タブレットを欲しい人と、ペーパーがわしゃええんじゃという人がおったら、それぞれに合わせたやり方で対処することも検討してもらえるのかなというのが。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 可能ではあるんですけど、やっぱりできれば全員にやっぱり同じ条件でというのが理想かなとは思うんですね。だからそのために一定期間練習というか、慣れる時間、そしてお互いが教え合ったりしながらという期間が必要かなとは思います。どうしても駄目ならという場合にはあり得るとは思います。尺田議員。

~~~~~○~~~~~

○5番（尺田） 最後、ごめんなさい。あと予算の関係ですよ。インシヤルコストとかランニングコストとか書いてあるんですけど、これを現状どうなんだろう。ペーパーで配ったりとかしとる予算と、これを入れたものの差と云ったら、大体どれぐらいなんだろう。ペーパーの印刷費用とか、各議員に配付しとるガソリン代とか。ちょっと使いこなせんのに、コスト的なところの差というのがちょっと分かれば教えてもらえますか。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 事務局長。

~~~~~○~~~~~

○議会事務局長（西村） 正直なところ、そういった紙の印刷費用、あるいは紙代というのはちょっと今試算はしてません。例えば、紙ですね。1枚が本当に何円かというレベルです。皆さんにお配りする資料のページ、全部1年間分を合わせても何十万円かというその世界になろうかと思えます。印刷費用を含めてもですね。ただ、ここで言えるのは、さっきちょっとお伝えしたのが、事務コストのほうの方が下がるというふうな言い方をさせていただきました。これが費用として算定できませんので、ということで、ちよっ

とそういった分で・・・させていただきます。すみません。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 片川議員。

~~~~~○~~~~~

○9番（片川） これ非常に便利になると思うんですけど、前回、デメリットとメリットを出してくれというた中には、尺田議員がおっしゃったことね。これを進めることのこのコストが今出てきましたね、ざっくりですよ。今までペーパーでやってきた中で、決算にしても、一月一月、年4回の議会にしても、その中に決算に予算もございますね。それペーパーでやってまいりましたよね。その資料を作ってきた議会に直接携わる費用ですね。今、局長がお答えになったのはペーパーを刷る紙の値段をおっしゃった。これ人件費を伴いますね。いろいろな諸経費が関わってまいりますよね。これがどのぐらいかかったのかというのをいさずしてこういう協議をするというのは、ちょっと物足らんかなという気がしとるんですね。4回のうちの1回の議会費ですよ、直接的な。そして月の中で委員会を何回か繰り返す。これを、この資料を作るための考察する時間も人件費が関わってまいりますね。それをペーパーに落とし込む。パソコンに打つ。こういった電気代等々も考えまして、全ての試算をまず出してみるべきなんじゃないかなと思うんですね。

その上で、私はこれはあつたら便利な思うんですよ、本当に。楽になるなと思います。効率も上がるのかなと思いますが、相対ですよ。お互いに比べたときに、どのぐらい違うのか。その上で、熊野町議会のレベルを鑑みたときに必要なかどうなのかというところを冷静に考えてみると、この予算はどんな言われたときに申し開きできませんね。というような気がするんですね。

そういうところを冷静にちゃんと見極めて、前に進めていただけるんならありがたいことじゃろうなと思っております。正味の年間議会費がどのぐらいかかるのか、本当のところをね。それをこれにとって代わったときにどれだけのメリットがあるのかというところをもうちょっと深く掘り下げて、数字に出していただいて、その上でこのランニングコスト、イニシャルコストというものを検討すべきなんじゃないかなという気がするんですよ。その辺をもうちょっと調べてみていただけないかなという気がしとるんですが、いかがでしょうか。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸）　そうですね。おっしゃるとおり、費用対効果といいますか、これだけ下がって、これだけ上がって、差額が幾らで、そこに対するメリットのほうと比べて、メリットのほうが大きければ大いに結構じゃないかと、こういう考え方ですね。それはそのとおりだと思いますよ。片川議員。

~~~~~○~~~~~

○9番（片川）　一つ慎重にならにゃいけないのは、思うのが、前回の発議からですよ。2件発議がございましたね。その中で、議運の中で私が申し上げたこと。ほかの方2名もおっしゃったことなんですけどね、災害が毎年日本のどこかで起きる。そして、コロナもこういう状態であると。今後のコロナの収束の補償は何一つございません。希望的憶測だけであって。その中で、予算がついて、国から助成をいただいているわけですけど、その予算がどこから出ているのかということ、一議員として、熊野町の町会議員16人一人一人が把握した上で、今回もコロナ関連の予算でついたというような今説明もございましたけど、それを使う責任、その責任感をどこに持って、何を認識して使うのかというところを踏まえたら、その辺をよく考えていただきたいなというところがございます。ただ、便利さだけが言える、予算がつけやすいから、前に進めようという考え方は安易に持っておられんとは思いますが、もうちょっと今の状態を考えていただいて、その上での協議を進めていただきたいなというところを常日頃思っております。この辺よろしく願いいたします。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸）　分かりました。

この件につきましては、去年だったかな。一応これを導入したらどうなのかなというような形から、少しずつ研究してきたところですが、まだまだ未確定な部分が多いんですよ。例えば、今言われたような、先ほども説明がありましたけど、費用、要するに予算、幾らかかるといっても、まだまだいろんな設定によって随分動く幅があって、まだこれから詰めていってようやく実際のお金が分かってくるという、まだその段階です。ですから、逆に言うと、どれだけ浮くかという、さっきの人件費を含めた、経費がどれだけ削除できるのかというようなところも、これからもっと詰めていかなきゃならないところだと思うんですよ。詰めながら、進めながらというところがあるんですよ。全部きちっとしてというところからさあどうしますかじゃなくて、やっぱりやる以上は、例えば先ほどの10年入れるのか、5年入れるのかとかいうような、いろんな条件によ

って予算やいろんなことが変わってくると。まだまだだから流動的な部分が多くて、進めながら詰めていくという段階だと思うんです。

先ほどコロナの予算の話が出ましたけど、そういうときに今ちょうどそういう補助金がありますよというようなことはちょうどあったと。今まで我々が進めてくる間に執行部のほうも、議会がやるんなら、じゃあ執行部のほうも、やり方は違うにしても進めていこうじゃないかということで研究されてきたようで、それで今、それでこういう方法はどうでしょうかというようなことまで来たというのが今の現状です。

これから前に行くのか、あるいはもっと止めてもう一回調べるのかというのは、皆さんに今お伺いしているところです。片川議員。

~~~~~○~~~~~

○9番（片川） おっしゃっている意味はよく分かるんですよね。分かるんですが、今私が申し上げたように、これ便利なんですよ。可能なことなら入れていただければ助かるなという思いは私個人ではあるんですよね。そういう思いの中の希望的なものが多い中で、発言が今先行しとるんじゃないのかなというところをちょっと感じたんで、お伺いしお願いをしとるところでございますので、別に反対しとるわけじゃございませんので、協議をその上で進めていただきたいなと思っております。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ほかに御意見ございませんか。沖田議員。

~~~~~○~~~~~

○8番（沖田） 私もタブレットの導入については賛成なんですけれども、自治体DXを推進するに当たって、先日、J I A Mのオンライン研修会に参加しました。そのとき講師の方がおっしゃっていらっしゃったのが、日本全国議会でも導入が進んでいるんですけれども、このタブレットを導入することによって、議案審議がより活発なものになったということではなく、逆に機器を操作することに議員の皆さんが必死になって、いわゆる質問どころではないといったところが現状であるというようなこともお伺いしました。

先ほど片川議員もおっしゃいましたけれども、非常に便利なことで、本当に使いこなせばこれ以上いいことはないんですが、このタブレットを使うことに必死になって、全く質問ができなくなるというのでは本末転倒じゃないのかなという気がしますので、先ほど事務局長のほうからもありましたように、いきなり本会議というのは本当に難しいと思いますし、例えば常任委員会から始めるとか、そういう少人数のところから試験

的にやっていくということが一番いいのかなとは思いますが、その本質というんですかね、タブレットを入れることが議会の目的なんじゃなくて、何でタブレットを入れるのか。議会の運営がスムーズになるとか、私たちの議員の仕事というのは、議案審議の中で住民に不利益がないかどうか、住民の利益になるかどうかということを考えながら質問していくということが我々の仕事ですので、それができなくなるようであればタブレットを導入するということに関してはちょっとどうなのかなという疑問がちょっと残るんですけれども、その辺もちょっと考えながら議長には進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 分かりました。

要するに本質を反れないようにということだと思います。確かにそのとおりだと思うんですね。最初は、操作するので精いっぱいという状況はどうしても最初はあると思うんですが、だから練習していく場も設けなきゃいけないかもしれませんし、スマホと一緒に、最初は分からんでも使えば使うほど分かってくると一緒に、それから必要がやっぱり一番の上達の鍵かなというようなこともあるんで、1年ぐらいは要るのかなというふうには思いますけども、当然、すぐにぱっとできるもんじゃないとは思っていますので。

荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） さっきの件と併せて、今の皆さんのお話も併せてですが、今からしとかにゃいけんのです。生産性と合理主義です。これを念頭に置いて、これに進んでいきさえすれば、間違いなく浸透していきます。もうアジアの中で一番遅いんですから、日本は。もう後れを取ってますんで、ついていかれんようになりますから、やらざるを得んです。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ほかに御意見はないですか。御意見がないようでしたら、まとめさせていただきますと思いますが、よろしいですか。

先ほど皆さんからの御意見をたくさんいただきました。確かに、先ほど言いましたようにまだまだ詰めなきゃならない問題がたくさんありまして、それを一つ一つ解決していく時間も必要です。それと同時にやっぱり予算が必要なことなので、予算組みという

ところの時間に間に合わせるという必要もあります。それから、今さっきありましたように補助金がちょうど使えるものがあるという、タイミングの問題がやっぱりあります。そういったこともありまして、このタブレットに関しまして、これから導入というところの方向に向けてこれから研究していくという形でよろしいでしょうか。まだまだその都度、皆さんに進捗状況はお伝えします。それでよろしければ、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(大瀬戸) では、異議がないというふうに認めますので、それではこのタブレットを導入する方向で進めさせていただきたいと思います。

それでは、タブレットについてはこの程度として、次に移りたいと思います。

事務局長。

~~~~~○~~~~~

○議会事務局長(西村) すみません、ちょっとごめんなさい。今、議長さんにまとめていただいたんですけども、先ほどちょっと説明の中にございました交付金が今使えるチャンスがあるという、そこがあるんですけども、この部分を、例えば環境整備のほうですね。いわゆるネットワーク、あるいはアクセスポイントなんかをつけるというのは今チャンスかなという気はするんですが、その部分はいかがでしょうか。

~~~~~○~~~~~

○9番(片川) ただ借金じゃけえね。その自覚を皆さん持つってもらわにゃいけん思うんですよ。予算が下りてくる、下りてくるいうて、国の中で余った金が下りてきとらんじゃ思うたら大間違いですからね。その辺は頭に置いとってもらわんとね。国債いうものは子やら孫に残すものですから、何ぼ今政治家が選挙でええ格好して、国債減しますいうたところで、できはしませんよ。子やら孫に残していくものですから、その辺は重々頭に置いて、大きな懐の中からもらうんだからいいんだよという感覚では、私は議員としていけんのじゃないかなと思うとります。そこだけは頭に置いといてください。その上で、その上でええチャンスじゃけえ使おうじゃないか思われてんなら、それでしようけどね。

~~~~~○~~~~~

○議長(大瀬戸) 片川議員、重々そのところは踏まえて、我々も、事務局も、また執行部も準備を進めていきたいと思えますので、よろしくをお願いします。

~~~~~○~~~~~

○10番（時光） だから、ネットワーク環境だけを作るということですね。

~~~~~  
○議長（大瀬戸） 時光議員、もう一回。

~~~~~  
○10番（時光） ネットワーク環境だけ先にそれで作るということですね。

~~~~~  
○議長（大瀬戸） そういうことになるのかな。

~~~~~  
○議会事務局長（西村） 今片川議員さんはそれも含めてしてもええんかという。

~~~~~  
○議長（大瀬戸） どっちにしましても、それも含めて、もう一回、現実的に落とすときにどうしたらいいかということを経営部とも相談しながら、実際、具体的にはどんなものが要るのかというところもこれからですので、それで進めていきたいと思います。

それでは、交付金により整備できるせっきくの機会ですので、この際、執行部における通信環境基盤の整備については進めてもらって、議会に関しては引き続き慎重に検討するというので、御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（大瀬戸） 異議なしと認めます。

それでは、タブレットについてはこの程度として、次に移りたいと思います。

続いて、その他ですが、何かございますか。沖田議員。

~~~~~  
○8番（沖田） すみません。先ほどの議会広報のことについて、ちょっと一言皆様に申し上げておきたいんですけれども、くまの議会だより、議会だよりというものは議員のものではありません。これは町民のものです。町民が議会の活動を知るための情報誌となっておりますので、各常任委員会の活動も掲載していく中で、議員がどのような活動をしているのか、町民に知っていただくという目的がありますので、私といたしましては、各常任委員会開催されていなければ仕方がありませんが、開催されているのであれば掲載をして、住民に知っていただくということが大切であると思いましたので、今回、尺田委員長のほうに確認をさせていただきました。また、どうしても掲載をしないのであるというのであれば、副委員長のほうから報告をさせるということではなくて、直接、

私のほうに言っていただければと思いますので、各常任委員会の委員長、よろしく願いいたします。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 尺田議員、ございますか。

~~~~~○~~~~~

○5番（尺田） ええわ、面倒くさいけえ。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） いいですか。尺田議員。

~~~~~○~~~~~

○5番（尺田） はい、そうしましょう。そうします。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ありがとうございます。

ほかにございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（大瀬戸） ないようでしたら、以上をもちまして全員協議会は終了といたします。

（閉会 10時26分）

上記の記録の内容が正確であることを証するため署名する。

熊野町議会議長

熊野町議会副議長